

# 公民館だより なかがわ

第497号

令和6年4月1日  
発行 中川地区公民館  
TEL.Fax: 679-2501



～新年度を迎えて～

中川地区の皆様には、日頃より公民館事業にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

猛威を振るっていたコロナもようやく昨年から5類に移行し、公民館事業もコロナ前に行っていた事業を再開し、利用者の方々の表情にも明るさが見られるような気がします。

公民館の施設面では、一昨年にはトイレのバリアフリー、昨年は実習室（調理室）の改修及びバリアフリーの工事を行い、利用者の方々が安全に安心して利用できるよう整備いたしました。

少子高齢化が進む中ではございますが、地区民の交流の場、生涯学習と地域づくりの拠点として、中川地区の活性化のために職員と共に頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

中川地区公民館 館長 山田 君夫



## 職員紹介



館長

山田 君夫

事務長

酒井 昭孝

あきよし

地域活動推進員 柏倉 美穂

地域活動推進員 三瓶 良子

上山市青少年育成推進員 山川 和夫

上山市地域づくり推進員 武田 麻奈美

上山市スポーツ推進委員 鈴木 俊

上山市スポーツ推進委員 齋藤 裕之

※令和6年度新体制の役員名簿は、別紙にて各戸配布いたします。  
どうぞよろしくお願いいたします。

# 【一般講座】

# 参加者募集

## 「刺し子教室」

日時：5月7日（火）10：00～12：00  
 場所：中川地区公民館 集会室  
 講師：高木 直さん（山形大学名誉教授）  
 持ち物：裁縫道具、ものさし、チャコペン、  
 飲み物、必要な方は眼鏡

材料費：500円（つり銭のないようにお願いします）  
 定員：先着10名程度  
 対象：中川地区民  
 締切日：4月23日（火）

※写真のようなポケットティッシュ  
 ケースを作ります。  
 初心者の方大歓迎です。






## 会員募集！



## 令和6年度中川粋いき倶楽部

中川地区の65歳以上の方を対象に、会員さん同士や地域の子供達との交流を通して、楽しく笑いのある生き生きとした人生にしていくことを目的とした倶楽部です。  
 詳細は、地区回覧チラシをご覧ください。  
 締切日：4月19日（金） ※開講式は、5月17日（金）を予定しております。

下記の会員募集については、公民館までお問合せ下さい。

グラウンド・ゴルフ愛好会	スポーツ麻雀愛好会	ラージピンポン愛好会
ウォーキング教室	そば打ち教室	詩吟教室
パソコンクラブ		 

お申込み・お問合せ：中川地区公民館（☎679-2501）

### 4月・5月 行事予定



- 4/1(月) 市報・館報
- 4/2(火) 会長会総会・協議会総会・中川地区合同懇談会
- 4/5(金) 粋いき倶楽部代表者会議・主事部体育部合同会議・体育部会
- 4/8(月) 中川小学校、北中学校入学式
- 4/9(火) 福祉村実行委員会
- 4/12(金) パソコンクラブ・子ども会育成会
- 4/16(火) そば打ち教室
- 4/19(金) 中川地区戦没者追悼式
- 4/22(月) 中川福祉村村議会
- 4/23(火) ウォーキング教室（職員不在時間帯あり）
- 4/24(水) 地区公民館職員合同会議（職員不在時間帯あり）
- 4/26(金) 上山市地区会長会議

- 5/1(水) 里山体験きのこ作り教室
- 5/2(木) 三者会・会長会・協議会
- 5/7(火) 一般講座「刺し子教室」
- 5/8(水) 市報・館報・福祉村実行委員会
- 5/10(金) パソコンクラブ・主事部会
- 5/14(火) そば打ち教室
- 5/17(金) 粋いき倶楽部開講式  
防犯協会中川支部総会
- 5/26(日) 中川地区グラウンド・ゴルフ大会
- 5/31(金) ウォーキング教室

グラウンド・ゴルフ愛好会 （月曜日）	4/8、15、22	ラージピンポン愛好会（木曜日）	4/11、18、25
詩吟教室（火曜日）	4/9、16、23	スポーツ麻雀愛好会（木曜日）	4/11、18、25

# 中川粋いき倶楽部閉講式

2月27日(火)「令和5年度中川粋いき倶楽部閉講式」が開催されました。来賓の地区会長会 鈴木会長よりご挨拶いただいた後、事業報告、決算見通しを報告し承認されました。終了後、ふじや旅館に移動して、おいしい昼食をいただきながら、会員の皆さんに一言ずつ1年間の感想を伺いました。「全部楽しかった」「来年度もまた楽しみたい」など、たくさんうれしい言葉をいただきました。来年度も会員の皆さんにより楽しんでいただける事業を考えていきたいと思っています。



## 中川福祉村施設訪問

3月4日(月)「中川福祉村施設訪問」が福祉村役員、会長会、民生児童委員の参加を得て開催されました。山形県立山形盲学校 深瀬 浩一教頭、社会福祉法人鶴翔会こまくさの里 那須 裕悌施設長の2施設よりお越しいただき、概要説明・質疑応答が行われました。コロナウイルス等感染防止のため、4年前より施設への訪問は行っておりませんが、現況等も含めてお話していただくことで、改めて各施設について深く知ることができました。これからも福祉村の事業等を通して、各施設と中川地区の連携を深めていければと思います。



## 【一般講座】「春のフラワーアレンジメント」

3月12日(火)、一般講座「春のフラワーアレンジメント」が開催され、たくさんの方に参加していただきました。ランキユラス、スプレーバラ、スターチス、ユーカリ、ニゲラ、ゴットセフィアナ、コデマリのお花を使い先生よりアドバイスをもらいながらアレンジしていき、それぞれ素敵な作品が出来上がりました。春が待ち遠しくなりますね! ♀



## 体験スポーツ教室「モルック」

3月15日(金)、「モルック」体験会が開催されました。モルック(木の棒)をスキttl(木製のピン)に投げて倒し点数を競い合うスポーツで、初めて体験する方もいましたが、皆さんすぐに上達して狙ったスキttlを倒して楽しんでいました。スキttlがばらけてくると、狙い通りにいかず悪戦苦闘していましたが、おおいに盛り上がりました!



「昭和考、問わず語り（その38）」

甲石地区 高橋 正之

関東軍は、謀略的な「満州事変」を引き起こしたのち、軍中央の不拡大方針を無視して満州への進攻を続けます。本稿では、関東軍のその後の進攻状況と国内外の情勢について記述します。

〈錦州へ進攻〉

関東軍は、昭和六年（以下同年）一〇月八日、一二機の飛行機をもって遼西の錦州を爆撃した。被害はそれほど大きくはなかったが、事件不拡大を決めた政府や世界各国に大きな衝撃を与えた。

錦州は、満鉄沿線から離れ、イギリスが権益をもつ北寧線沿線の都市だった。北平にいた張学良は、拠点の奉天を関東軍に占領されたので、錦州に政府を設け、東北支配を維持しようと図り、これを関東軍がたたくこととしたのであった。

〈陸軍が満州の独立建設方針を決定〉

一〇月八日、陸軍が陸相官邸で三長官会議を開催し、満州での独立国建設、対外了解とりつけなどの「時局処理方針」を決定した。

〈クーデター計画の発覚〉

一〇月一七日、桜会の橋本欣五郎中佐らが企てた軍部内閣の樹立のクーデター（一〇月事件）が未然に発覚し関係者が逮捕された。橋本は板垣と、柳条湖事件を起こすにあたり、政府が関東軍の行為を認めないときには、クーデターで政府に脅しをかけるという約束を取り決めていた。この事件は、錦州爆撃に加え政府を震撼させた。

〈国際連盟の空気悪化〉

関東軍の進攻は、若槻内閣の事件不拡大方針を完全に反故とし、国際連盟の空気が悪化、日本の信用は失墜した。

一〇月二四日には、国際連盟理事会において、一月一六日までを期限とする、日本軍の満州撤兵勧告案を二三対一で可決した。

〈東北・北海道が大冷害、増え続ける欠食児童と身売り〉（既に本稿「昭和考、問わず語り」その25、26で紹介したとおり）昭和六年は、東北地方・北海道で大冷害、凶作に見舞われ、全農作物が七割減となり、要保護窮民が三五万人、学校に弁当を持って行けないいわゆる欠食

児童が全国で二〇万人、また青森、秋田、山形、福島、新潟の各県で若い女性の身売りを一万人余出した。なお二月には、東京都内でも欠食児童が出た。（写真①は、「どん底生活の母子」との見出しで毎日新聞に報じられた青森県内の農家。）

〈子チハルを占拠、東三省を手中に〉

一月四日、関東軍は、馬占山軍と交戦、一九日には黒竜江省の省都・子チハルを占領した（写真②）。これで奉天・吉林・子チハルと東三省の省都が関東軍の手中に陥った。

〈内地部隊の派遣〉

内地部隊の最初の派遣は一月で、その後続々と増援され、昭和七年末までに第八（弘前）、第一〇（姫路）、第一四（宇都宮）、第六（熊本）の各師団、第一、第四の各騎兵旅団が派遣された。（写真③は、満州に赴く兵士の様子）

〈天津事件を起こし、薄儀を脱出させる〉

一方、関東軍は満州国の建国策を進め、奉天の特務機関長・土肥原賢二大佐らの謀略により、一月八日、第一次天津事件が引き起こされ、この混乱にまぎれ、一月一〇日旧清朝の廢帝・愛親覚羅溥儀を天津から脱出させ大連に向かった（一三日營口に到着）。

また、一月二六日には天津の中国軍が日本兵營へ砲撃し、日本が応戦して、日中両軍が再衝突（第二次天津事件）が起きた。このため関東軍が遼西に出勤したが、アメリカの強硬声明に、軍中央も撤退を命じた。

〈マスコミが国民の排外熱を煽る〉

一月、二月になると戦闘を続ける日本軍を励まそうと本土からの「慰問使」が相次いだ。二月一日には、吉本興業部に所属する漫才の横山エンタツ・花菱アチャコらが「笑いの慰問団」（写真④）として満州に出発。奉天、吉林、長春などの各地で兵士の熱狂的な歓迎を受けた。

新聞各社は、満州事変を拡張競争に利用、大量の記者を派遣し、連日センセーショナルな報道を続け、国民の排外熱を煽った。

二月二日には、夫の出征を前にした妻が遺書を残して自刃する事件が大阪で起き、これをマスコミが「軍国の妻」として称賛したため、新聞、放送、雑誌、映画などがなだれを打ったように軍国主義に向かった。

〈国際連盟が現地調査団派遣を決議〉

国際連盟は、一〇月以降、日本政府に対し、撤兵等を要求、警告をしていたが、二月一〇日、最終公開理事会において、満州問題の決議案を全員一致で可決、現地調査団の派遣などを決定した。（昭和二年日の全記録」講談社より。写真は、同書及び「満州帝国の興亡」新人物往来社より。）

（次回は、犬養内閣の成立、関東軍の錦州進攻などについて記述する予定です。）



(写真①)



(写真②)



(写真③)



(写真④)